

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●永島まなみ騎手が春の福島リーディングジョッキーに輝く

4月23日(日)をもって第1回福島競馬が終了し、7勝をあげた永島まなみ騎手(栗東・高橋康之厩舎)が開催リーディングジョッキーとなりました。

●中山競馬場でブリーズアップセール開催

4月25日(火)、JRA育成馬を売却する2歳調教セール「2023 JRA ブリーズアップセール」が中山競馬場にて開催されました。上場された79頭(牡40頭・牝39頭)のうち78頭(牡39頭・牝39頭)、翌26日(水)のインターネットオークション方式で1頭が売却され、売却総額は8億3501万円。最高額をつけたのは、牡馬がスルージエアー2021(父マインドユアビスケッツ/曾祖母はディーブインパクトの母でもあるウインドインハーヘア)、牝馬がピンクシャンパン2021(父デクラレーションオブウォー/祖母はNHKマイルC勝ち馬ピンクカメオ)で、いずれも2970万円でした(金額はすべて税込)。

●重賞ウィナー6頭の競走馬登録抹消

2022年かしわ記念(船橋・Jpn I)などの勝ち馬ショウナンナデシコ(牝6歳/栗東・須貝尚介厩舎/JRA通算18戦5勝・地方9戦4勝)、2021年優勝牝馬(オークス・G I)の勝ち馬ユーバーレーベン(牝5歳/美浦・手塚貴久厩舎/JRA通算14戦2勝・海外1戦0勝)、2019年阪神ジュベナイルフィリーズ(G I)などの勝ち馬レシステンシア(牝6歳/栗東・松下武士厩舎/JRA通算15戦5勝・海外3戦0勝)、2021年東海テレビ杯東海S(G II)などの勝ち馬オーヴェルニュ(牡7歳/栗東・西村真幸厩舎/JRA通算30戦8勝・地方3戦0勝)、2022年サンケイスポーツ杯阪神牝馬S(G II)の勝ち馬メイショウミモザ(牝6歳/栗東・池添兼雄厩舎/JRA通算33戦5勝)、2017年日刊スポーツ賞シンザン記念(G III)の勝ち馬キョウヘイ(牡9歳/栗東・宮本博厩舎/JRA通算42戦3勝)は、3月9日(木)までに競走馬登録を抹消されました。ショウナンナデシコは北海道日高町の天羽牧場、ユーバーレーベンは北海道新冠町のビッグレッドファーム明和、レシステンシアは北海道安平町のノーザンファーム、メイショウミモザは北海道浦河町の三嶋牧場でそれぞれ繁殖馬となり、オーヴェルニュは地方・浦和競馬、キョウヘイは地方・岩手競馬に移籍しています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●日高賞(水沢)は大井のワイズゴールド【各地の主要3歳重賞】

日高賞(4月16日、水沢、1600^円、牝馬)は、逃げた大井からの遠征馬ワイズゴールド(父レインボーライン)が後続を4馬身引き離し、1番人気に応じて重賞初制覇を果たしました。

●メイショウハリオが登場、5月4日のかしわ記念(船橋)

かしわ記念(Jpn I、5月4日、船橋、1600^円)は、フェブラリース3着以来となるメイショウハリオが中心、以下シャマル、ハヤブサナンデクン、ソリストサンダー、スピーディキック(浦和)、ヴァレーダラルナ、タガノビューティーの順に有力視されます。

●5月3日の兵庫チャンピオンシップ(園田)はミトノオーが有力

兵庫チャンピオンシップ(Jpn II、3歳、5月3日、園田、1870^円)は、JRA唯一の3勝馬ミトノオーが最右翼、2戦2勝のメイショウオーロラが続き、キリンジ、サンライズジーク、マルカラピッドまでが争覇圏内と考えられます。

●ドライスタウトらが出走、5月2日のかきつばた記念(名古屋)

かきつばた記念(Jpn III、5月2日、名古屋、1500^円)は、前3走大敗のテイエムサウスダンが61^{kg}のトップハンデとなったため、58.5^{kg}のドライスタウトが最有力候補、ヘリオス、デュアリスト、ウィルソンテソーロにもチャンスがありそうです。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G3グリーンナムS～アイザックシェルビーが逃げ切る

現地4月22日にイギリスのニューベリー競馬場でG3グリーンナムS(3歳牡・騾、芝1400^m)が行われました。レースは昨年のG1デュールハーストSの勝ち馬で、ここは1番人気に推されていたチャルデーンの鞍上L.デットーリ騎手が発走直後に落馬する波乱のスタートとなりましたが、S.レヴィー騎手が手綱を取ったアイザックシェルビー(牡3歳、父ナイトオブサンダー、B.ミーハン厩舎)が、カラ馬となったチャルデーんに絡まれながらも逃げ切りました。アイザックシェルビーはこれで昨年7月のG2スパーラティブS(芝1400^m)以来となる重賞2勝目。今後は5月14日のG1仏2000ギニー(芝1600^m)に向かう予定です。

●G2オークローンH～プロキシーが重賞2勝目

G2ながら100万ドルの総賞金を誇るオークローンH(4歳上、ダート1800^m)がアメリカ・アーカンソー州のオークローンパーク競馬場で4月22日に行われ、7頭立ての5番手でレースを進めたプロキシー(牡5歳、M.スティッドハム厩舎)がJ.ロザリオを背に差し切り勝ちを収めました。プロキシーは父が北米首位種牡馬3回のタビットで、母がG1アメリカンオークスとG1スピンスターSを制したパンティーレイドという血統。昨年11月のG1クラークS(ダート1800^m)以来となる2つ目の重賞制覇となりました。